

創意と工夫で希望の村を

昨年度は5年に一度の国勢調査が実施されました。

また、郵政民営化問題で衆議院を解散し選挙が行われ、結果は、政権政党の圧勝に終わりました。

しかし、行財政改革の名の基に国民負担が強いられ、国内経済は一向に好転せず、それに追い打ちをかけるように、政界にも波紋を呼ぶ事件が発生し国民不安と動揺を与える結果となつていきます。

また、村内の経済を省みますと基幹産業であります水産業は、大型クラゲの異常発生などにより、収入が落ち込む状況が続いており、経済状況は悪化の方向にあるものと考えております。

本年度の養殖漁業、定置網業に期待をするともに、今後は、資源の有効活用など産業団体と一体となった取り組みが必要と考えております。

安心の村づくりに努力

本村を含む岩手県沿岸は津波常襲地帯で、過去に多くの尊い命と財産が失われました。

昭和の三陸大津波から70年余りが経過していますが、宮城県沖地震の発生が今後30年以内に99%、20年以内には88%と予想され、これに係る対策が急務と考えております。

平成17年度には津波防災マップを作成し、村民の皆さんへの啓発に努めるとともに、平成18年度は、日本海溝、千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法により、津波からの避難者、地震防災対策に関する各種計画の作成が必要となります。村民の人命と財産を守り



この子たちのためにも未来に希望が見える、笑顔あふれる村づくりを進めます

安心して暮らせる村づくりのため努力する所存であります。

財政の健全化が課題に

21世紀は、地方分権の時代といわれております。現在、日常生活圏の拡大、高

上に新たな時代に対応できる、新たな地域づくりへの取り組みが、幅広い視点から求められております。

地方分権の確立が叫ばれ、地方の自主性や自己改革が求められている今日では、財政の健全化は喫緊の課題であります。

これら山積する課題に適切な対応をしながら、グローバルな村づくりを理想とする「北緯40度東端の地球村」構想実現のため、村民の皆さんとともに渾身努力したいと考えておりますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

琴丘町との友好を終結

北緯40度線上で結ばれた、友好町村秋田県琴丘町とは、昭和60年10月1日に友好町村宣言書が交わされ、産業、観光、教育、文化、スポーツなど多面的にわたり友好親善を深めてきました。

しかし、琴丘町が本年3月20日に三種町として新たにスタートすることから、

両町村協議の結果、友好町村の終結を確認をいたしました。

約20年にわたり親交を深めていただきましたことに對し村民の皆さんとともにお礼申し上げます。

未来を見据え村づくり

さて、村政運営の基本方針について申し上げます。普代村のマスタープランである「新普代村総合発展計画」の基本目標に基づき取り組んでまいります。

その基本施策として、①人を育てる人を活かす②地域の資源を知恵と努力で活かす③恵まれた自然を活かして快適生活環境をつくる④住民参画による開かれた行政活動を展開する――の4本柱をメインテーマに掲げていきます。この目標実現に向け、村民の皆さんの協力と英知を終結し、創意と工夫を凝らして、未来に希望が見える村づくりのために努めてまいります。

(次ページに続く)